OOMUKAI TIMES

第１７４号／2021 年１１月１日発行　編集発行：大向市民センター（愛称：**きんぽー館**）
大向地区　人口 313人（男性 138 人 女性 175 人）／高齢化率 65.5%／世帯数 178 世帯（10/1 現在）
Web ではカラー版をご覧になれます。http:// shunan-chiikijoho.jp/council/omukai　QR コード
☎：88−0312　E-Mail：oomukai-ko@city.shunan.lg.jp　←情報があればこちらまで！

今回はぜひカラーでご覧ください！

スマホ教室開催！

講師：大向市民センター主事

みんなでラインを使ってみよう！

１０月１３日（水）と１９日（火）の２日にかけて、『シニア・初心者向けスマホ教室』を大向市民センター主催のもとで開催しました。

この教室はスマートフォン（以下、スマホ）の基本的な使い方から、インターネットやアプリの活用方法などをお教えする教室で、７０代から８０代の計１０名の方にご参加いただきました。

教室を開催してみて驚いたことが、参加者の皆さまの「スマホをもっと使えるようになりたい。」と思う学習意欲の高さです。皆さま真剣に講師の話に耳を傾けられ、「これをやってみたいんだけど、どうしたらいいの？」というようにたくさん質問していただきました。おかげさまで、講師の教えにも熱が入り、教室は和気あいあいと盛り上がりました。

本教室の参加をきっかけに、ますますスマホに親しみを持たれ、ご自身の暮らしをより楽しく、より便利にしていただければ、主催者として冥利に尽きます。

また、今回は参加できなかった方も、スマホに関するお悩みや、講座開催の要望などございましたら、市民センターまでお尋ねください。

～参加者の方の感想ご紹介～

・「スマホの使い方について、こんな教室があれば良いなと思っていたところに良い機会でした。不安なところが少し解消しました。」

・「スマホは奥が深いことが分かりました。スマホってすごいですね！」

・「とっても楽しいひと時でした。少しは脳トレになったと思います。」

もっと 元気発見！大向

このコーナーでは、大向地区に住む元気な人や風物、又その季節に出会う素敵な光景など、出会いやふれあいの中から見つけた「大向の元気・素敵」を紹介します。

プロジェクトO PROJECT OOMUKAI

向道郵便局にある大向を体現した風景印。その誕生には地元住民の方の思いが込められていた。

向道郵便局の風景印

みなさんは風景印をご存じでしょうか。今年の日刊新周南の連載企画で取り扱われたため、ご存じの方も多いかもしれません。

風景印は、郵便局にゆかりのある風景や名所などを描いた消印で、郵便窓口にて押印してもらうことができます。

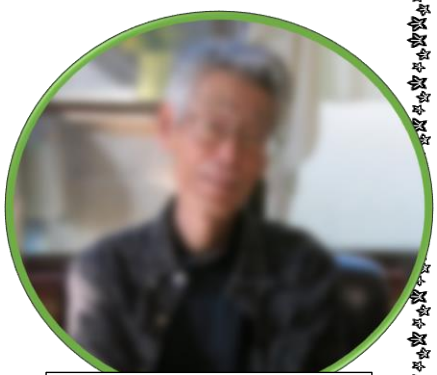
周南市内にある39郵便局のうち、風景印がある郵便局は16局。そのなかに、大向地区の向道郵便局も含まれています。実際に向道郵便局へ行き、風景印をもらってみました（写真左上）。この風景印の誕生には、大向に住む方々が大いに関わられました。

時に平成7年、各郵便局では風景印を作ろうという動きが盛んになり、当時向道郵便局に勤めていた二俣上の有馬義次さんも取り掛かりました。押印日（利用開始日）は平成7年7月7日のぞろ目が縁起が良いと考え、その日までの完成を目指しました。通常であれば、申請から完成までに半年以上かかるものですが、有馬さんは人脈を駆使し、2、3か月で完成にこぎつけ、無事その日から押印開始ができました。

デザインを担当したのが五味の山本俊昭さん。知る人ぞ知る大向の画家さんのもとへ、デザインを起こしてくれないかと有馬さんから依頼が舞い込みました。山本さんはこれに応じ、金峰山、向道ダム、桜と式内踊りという大向の名所や伝統文化を、一つのハンコの中に見事に調和させ描き上げました。デザインは一回で審査をクリアし、他の郵便局が羨むほどの評判であったということです。

現在でも収集家が月に3回程度は向道郵便局を訪ね、風景印をもらいに来るそうです。みなさんも、もらわれてみてはいかがでしょうか。

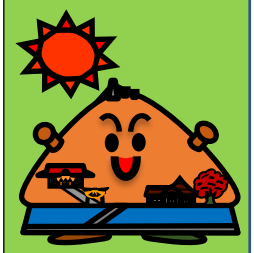
向道郵便局



五味　山本　俊昭さん

参考：日刊新周南「周南・下松・光市　風景印の旅」（令和３年８月２５日号）

ちょっと一息



秋のきんぽーくん

秋の夜長、とくやま昔話をおひとつ

二俣神社の御幣（大向）

むかし、八百年ぐらいも前の秋の話じゃ。

錦川が大洪水になったとき、大向の二俣神社の御幣（神祭用具のひとつ）が、水に流されたそうな。

なん日かたって、錦川の水がようやくひいた。そのときずっと川下の玖珂河山の三浦というもんが、網で魚を捕っちょると、一束の御幣が網にかかった。

三浦は御幣をきれえに洗うて、近くの大岩の上にまつった。

その夜のことじゃ。三浦の夢枕に神様があらわれた。

「これ、三浦よ。川下の浜田というものと相談して、御幣が流れた神社をさがし、われを、鎮守の神としてまつれ」

三浦はその夢で目がさめた。そして、夜が明けるのを待って、川下の浜田の家に行った。

「夕べ、不思議な夢を見ましてのう……」

そういうて、夕べ見た夢の話をした。すると、浜田がいうた。

「不思議なことがあるもんですいの。わしも同じ夢を見ましたいの。こりゃあ、なんとしても、どこの神社の御幣か探さんといけんですいの」

ふたりはすぐに連れだって、錦川をさかのぼって行ったが、道のないところを草木をわけて歩くもんじゃから、一日ではいくらも歩けん。なん日目かに、やっと大向の二俣神社にたどりついた。

「おお、御幣の神社じゃ。ここが御幣の神社にまちがいなあ。これが二俣神社か。苦労してきた甲斐があったのう」

ふたりは涙を流してよろこんだ。御幣の神社を探しあてたふたりは、さっそく御幣を河山にもちかえり、村の人たちと相談して、大岩の上に、ひろうた二俣神社の御幣をまつって、　鎮守の神様としたそうな。

〇それから二百五十年ぐらいたって、河内神社が建てられたときに、この御幣がご神体としてまつられた。

参考　「とくやま昔話」　向谷　喜久江著　マツノ書店発行

令和3年10月15日
石の原のフジバカマと
アサギマダラ（推定100頭）

フジバカマの甘い香りに誘われて、今年も大向にアサギマダラがやって来ました。

毎年やって来るお庭をお持ちの方いわく、今年は「過去最高」とのことで、例年なら30頭やって来たら万歳のところ、今年は多いときで一度に150頭は見ることができたそうです。

編集者も噂を聞き、お庭に駆け付けたところ、とても美しい光景を見ることができ、思わずカメラのシャッターを切り続けました。

編集後記

今回、アサギマダラの群れを見ることができたのも、スマホ教室に参加された方が、後日センターへ質問をされにいらっしゃった時に、「今たくさん来ているよ！」と教えてくださったからでした。

スマホ教室をもし開催していなければ、この幻想的な光景を見ることはできなかったかもしれないと考えると、「人とのつながりを大切にしていこう。」と改めて考えさせられる、良い機会になりました。

大向市民センター主事　藤原

11月の行事予定

- いきいき百歳体操　毎週月曜日　10：00～
- 大正琴　毎月第2・第4金曜日　10：00～
- 健康マージャン　毎週月曜日　13：00～
- 料理教室　毎月第1木曜日　9：00～
- やまびこ号巡回日　11月13日（土）14：30～15：00
- 寺山公園花壇整備　11月4日（木）9：00～
- 福祉部配食サービス　11月26日（金）11：00～

※コロナの感染状況によっては中止とする場合がございます。ご理解のほどお願い致します。